

# 一頭一頭を、責任を持って育てられる人に

「まさか自分が選ばれると思っていなかったので、とても嬉しかったです」と声を弾ませるのは、第16回全日本ホルスタイン共進会(10月24日・北海道安平町)で併催された、牛を引く技術を競う「リードマンコンテスト」高校3年生の部で、セカンドベストリードマン(準優勝)に輝いた藤田梨愛さん。集大成の大舞台での「思ってもいなかった」成果は、今後の進路に向け大きな弾みとなった。

※5年に一度開催され、ホルスタイン牛の品質を競う全国規模の大会。「乳牛のオリンピック」とも称される

120頭のホルスタイン牛を飼養する酪農家に生まれた。「物心ついた時には牛舎で手伝いをしていた」といい、将来は牛に関わる仕事に就きたいと、県内で唯一、ホルスタイン種のいる盛岡農高を進学先に選んだ。

入学前まで「牛舎の手伝いはコツコツとやってきたけど、牛のことは何も知らなかった」と振り返り「牛のからだを学ぶにつれ、命の大切さを実感した」と3年間を思い起こす。

学校では、育てた牛を、課外授業で各地の共進会(品評会)に出品している。藤田さんは、会場で審査員の指示に従って牛を先導

※現在は200頭まで増頭

全日本ホルスタイン共進会(北海道・安平町)リードマンコンテスト  
セカンドベストリードマン(準優勝)に輝いた

## 藤田 梨愛さん

ふじた・りな18歳 松尾

し、飼養状況を見せるリードマンを1年生の時から務めてきた。今大会への参加は、出場枠を持つ学校が藤田さんの経験の豊富さを見込み「自分を選手として選んでくれた」という。



食欲などに異常が無いが、実家の牛を確認する藤田さん

出場が決まっただけ、ほぼ毎日、学校の牛舎で先生から牛のきれいな見せ方、立たせ方を教わった。自分でも「うまくいった時は撫でてあげたり、歩かない時は、口で音をたてたり、自分の行動で牛に理解させよう」と練習してきた。

現地移動前の練習がうまくいかず「とてもガッカリした」という藤田さん。「たくさん練習したから気合で頑張ろう」と思い直し、臨んだ大一番で準優勝が確定すると、ライブ配信で大会を見ていた先生や

友だちから早速連絡をもらった。「結果もだけど、『おめでとう』『うれしくて鳥肌が立ったよ』とみんなが喜んでくれたことも、うれしかった」と大会当日を思い出す。

高校卒業後は、同校の特別専攻科に進み、人工授精師の資格取得を目指すという藤田さん。将来は、実家の酪農を支えたいと考えている。「常に牛の様子に気を配り、牛一頭一頭の命に責任がとれるよう、畜産をより詳しく学んでいきたい」と高みを目指す。

### 編集後記

▽平館高校が、地域に広め、小中学生にもつなぐと取り組んでいる「ムラサキ」の伝承活動。今年も植栽のほか、寺田小、平館小、平笠小の児童が「紫根染」を体験しました(表紙・21頁参照)。家政科学科の生徒が小学生児童に教えるというのがポイントで、とても素敵だと思います。ずっと続いてほしいですね。(曹)  
▽叙勲や表彰を受けられた皆さんを取材(4・5頁参照)。限られた時間の中でお話を聞かせていただきました。在職中を振り返り一番印象深かった出来事や、働く際の心構えなどをさまざま語っていただきました。思い出しながら、楽しそうにお話しされている姿がとても印象的でした。(千)

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。

関節痛、腰痛、骨を丈夫に  
コミュニティバス  
「八幡平中央整形」バス停そば  
(八幡平中央 整形外科・内科クリニック)  
漢方のあさひ薬局  
八幡平市大更25-118-1 TEL0195-75-2227



参加した「モリノウ BWキラキラ レポリューション」と一緒に、48人中2位の結果を喜ぶ藤田さん(写真は家族提供)。